

第 9 章 異常水質事故発生状況

I 概要

異常水質事故とは、公共用水域に汚水、廃液、油等が排出又は廃棄され、水質の著しい汚濁やそれらによる魚介類等への被害が発生することをいう。

異常水質事故の発生場所や原因等により関連部署は多岐にわたっており、本市では、平成30年4月に策定した「川崎市水質事故対応要領」^{※1}に基づき対応している。

※1 平成6年度～平成29年度までは、「川崎市異常水質事故対策要領」

II 対象事故

環境局水質環境課で把握した魚死亡、油浮遊等の異常水質事故

III 発生状況

1 異常水質事故発生件数

(1) 種類別事故発生件

平成30年度に発生した異常水質事故は47件であった。前年度の38件と比べ9件増加した。異常水質事故の種類別では、油浮遊が16件と最も多く、次いで着色水が14件、濁水が3件、魚死亡が2件、pH異常が1件、地下浸透が6件、その他が5件であった。

(2) 水系別異常水質事故発生件数(表IX-1)

水系別では、東京湾で20件、多摩川水系で18件、鶴見川水系で9件の異常水質事故が発生した。

東京湾で発生した異常水質事故は、油浮遊が12件、濁水が1件、着色水が1件、pH異常が1件、地下浸透が4件、その他が1件であった。

多摩川水系で発生した異常水質事故は、魚死亡2件、油浮遊が1件、着色水が9件、濁水が2件、地下浸透が1件、その他が3件であった。河川別では、多摩川本川で2件(着色水1件、濁水1件)、平瀬川で6件(魚死亡1件、着色水5件)、二ヶ領本川・用水で2件(着色水1件、濁水1件)、五反田川で2件(魚死亡1件、着色水1件)、山下川で1件(油浮遊1件)、その他(水路で発生した水質事故等)で5件(着色水1件、地下浸透1件、その他3件)であった。

鶴見川水系で発生した異常水質事故は、油浮遊が3件、着色水が4件、地下浸透が1件、その他が1件であった。河川別では、矢上川で1件(着色水1件)、有馬川で2件(油浮遊2件)、片平川で1件(油浮遊1件)、その他で5件(着色水3件、地下浸透1件、その他1件)であった。

表IX-1 水系別異常水質事故発生件数

種類		魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
東京湾	川崎港運河内		10	1	1	1	1	4	18
	川崎港運河外		2						2
	小計		12	1	1	1	1	4	20
多摩川	多摩川本川			1	1				2
	三沢川								
	旧三沢川								
	平瀬川	1		5					6
	二ヶ領本川・用水			1	1				2
	五反田川	1		1					2
	登戸雨水幹線								
	山下川		1						1
	六ヶ村堀雨水幹線								
	宮内雨水幹線								
	その他			1			3	1	5
小計	2	1	9	2		3	1	18	
鶴見川	鶴見川本川								
	矢上川			1					1
	有馬川		2						2
	渋川								
	麻生川								
	早野川								
	真福寺川								
	片平川		1						1
	江川								
	その他			3			1	1	5
小計		3	4			1	1	9	
合計		2	16	14	3	1	5	6	47

(3) 原因別異常水質事故発生件数(表IX-2)

原因者が判明した異常水質事故は26件で、工場・事業場によるものが21件、建設工事によるものが2件、その他が3件であった。

工場・事業場に起因する21件の異常水質事故(油浮遊5件、着色水2件、濁水2件、pH異常1件、地下浸透6件、その他5件)の原因は、施設の破損が9件、作業ミスが5件、施設の管理不備が7件であった。建設工事に起因する2件の異常水質事故(油浮遊1件、濁水1件)の原因は建築工事であった。また、原因不明の異常水質事故は21件で、魚死亡が2件、油浮遊が7件、着色水が11件、濁水が1件であった。

表IX-2 原因別異常水質事故発生件数

原因	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	地下浸透	その他の水質異常	合計
	工場・事業場	施設の破損		2				6	1
作業ミス			1		1	1		2	5
施設の管理不備			2	2	1			2	7
火災消火									
原因不明									
	小計		5	2	2	1	6	5	21
建設工事	下水道工事								
	河川改修・管理								
	水道・ガス工事								
	建築工事		2						2
	道路工事								
	その他の工事								
	小計		2						2
船舶	施設の破損								
	作業ミス								
	施設の管理不備								
	原因不明								
	小計								
	その他		2	1					3
	原因不明	2	7	11	1				21
	合計	2	16	14	3	1	6	5	47

2 異常水質事故発生状況の経年推移(平成6年度～平成30年度)

(1) 異常水質事故発生件数

平成6年度から平成30年度までの種類別異常水質事故発生件数を表IX-3に示す。

過去25年間の平均発生件数は39件/年であった。

表IX-3 種類別異常水質事故発生件数経年推移

種類	年度																								合計	
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29		H30
魚死亡	3	3	4	12	1	0	3	3	1	1	0	0	2	2	0	4	5	4	4	3	3	0	1	3	2	64
油浮遊	13	11	13	24	15	11	18	11	14	20	11	21	20	19	21	14	10	14	19	25	17	23	17	14	16	411
着色水	3	5	6	8	3	4	9	1	5	6	7	5	27	12	18	38	26	8	21	16	14	18	15	12	14	301
濁水	1	2	0	0	3	4	6	5	4	4	1	5	4	7	8	14	4	1	2	2	5	8	4	3	3	100
pH異常	3	2	5	4	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	2	1	27
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6	9
その他	1	1	2	2	1	1	1	0	1	4	1	0	0	1	2	3	1	7	2	3	4	2	5	3	5	53
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47	965

(2) 水系別異常水質事故発生件数

平成6年度から平成30年度までの水系別異常水質事故発生件数を表IX-4に示す。

水系別発生件数は、海域では京浜運河（48件）、多摩川水系では平瀬川（227件）、鶴見川水系では矢上川（132件）が最も多かった。

表IX-4 水系別異常水質事故発生件数経年推移

水系	年度																														合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30						
東京湾	川崎港運河外		1		4	1	1				3	1	2	3	4	3	2	1			2	1	3	1	1	2		36			
	末広運河						1			1		2				1					1	1						7			
	田辺運河	2	1	2	2				2	1	1				2	2	1		1	5	1	2	1				1	27			
	大師運河			1			1		1	1	1	3	1	4						1	1		2	2	2	2	2	23			
	京浜運河	2	2	2	3		4	2	1	4			3	1		2		1	1	1	3	4	3	4	1	4		48			
	千鳥運河					1		2			2		2				1			1	1	2	1	5	2			20			
	塩浜運河	1	3	1								1		1	1	1			4				1	1	2	1		18			
	池上運河	1		1						1	2		2			1							1					9			
	夜光運河			1																							3	1			
	水江運河				1											1									1			3			
	浅野運河					1				1	2	1			1			1				1			1			9			
	桜掘運河					1				2					2				1									6			
	南渡田運河						1								1	2										3	2	7			
	白石運河											1	2					1				1						5			
	川崎航路							1							1										1			3			
	境運河													1	1												1	2			
	多摩運河																			1	1							2			
	小計	6	8	8	10	3	8	5	5	12	10	8	13	12	12	11	6	2	8	9	11	11	11	16	11	16		226			
	多摩川	多摩川本川				3	2			1	5	2			1	5	5	5	7	2	1	4	2	2			2	49			
三沢川			1	1	1	3		2	1	1	1				2	2	4	1	1	1	2	2		1	2		29				
旧三沢川			1							1		1									1	2					6				
平瀬川		5	4	9	7	5	5	1	4	2	6	5	6	23	8	16	34	14	10	11	11	11	15	5	4	6	227				
ニヶ原本川・用水		6	6	2	8	3	2	5	5	1	2	4	4	3	3	3	1	3	3	2	2	3	5	5	2	2	85				
五反田川		1			2	1	1	2	2				2	2	1		1	1	1	4	2	2	4	7	4	2	42				
登戸雨水幹線		1			1	1						1															4				
山下川								2								1	1	1		1						1	6				
六ヶ村堀雨水幹線								2										1		1							5				
宮内雨水幹線				1				1			1						1										4				
その他					2		2	1						1												6	4	12			
小計	13	12	13	25	15	8	17	14	9	13	10	13	30	19	27	48	27	17	21	22	22	26	18	18	17	469					
鶴見川	鶴見川本川				1	1	1	1					1		1		3		1								10				
	矢上川	2	4	4	6	4	1	5	2		10	2	2	8	6	6	10	11	7	5	9	8	11	5	3	1	132				
	有馬川			1	3			4		2		1		3		1	3			4	2		2		1	2	29				
	渋川	1		1	1			1		1								1								1	7				
	麻生川			1	3		1	1		1	1				2	3	2	4	2	3	2	2	1	1			30				
	早野川				1			1				1			1										1		5				
	真福寺川	1			1	1					1		1			1	1			1	2						10				
	片平川	1		1				1					1					1		1	2		1	2	2	1	14				
江川					1		1																1			3					
その他						1													1	4		1				4	7				
小計	5	4	9	15	7	4	15	2	4	12	3	6	11	10	11	19	17	11	18	17	11	15	9	8	8	247					
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6		8				
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47		950				

(3) 原因別水質事故発生件数

平成6年度から平成30年度までの原因別異常水質事故発生件数を表IX-5に示す。

原因不明の異常水質事故は過去25年間で平均23件/年であり、全体の60%となっている。

表IX-5 原因別異常水質事故発生件数経年推移

原因	年度																				合計						
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25		H26	H27	H28	H29	H30	
工場・事業場	施設の破損	1	6	2		1	2	1	2	2	1	1	2		1	1				1	2	3	2	1	9	41	
	作業ミス	6		3	5	2	5	7	1	2	6	4	6	5		2	2	4	1	3	1	3	4	2	5	79	
	施設の管理不備		4	3	5	1		5	3	4	3	1	2	3	1	1	3		3	3	9	7	2	4	11	7	85
	火災消火			1	1										1							2					5
	原因不明																		1			1			1		3
	小計	7	10	9	11	4	7	13	6	8	10	6	10	8	3	2	5	2	8	4	13	13	8	10	15	21	213
建設工事	下水道工事	1				1		1	1						2	1	2				1						11
	河川改修・管理		1	1		3					1	1		1					2			1			1		12
	水道・ガス工事									1						1	2				1						5
	建築工事			1		1		2			1		3	1	2	3	5		2	2	3	2	1	1		2	32
	道路工事				1				1	1				1				2				1	2				9
	その他の工事														2	2				3	1						8
	小計	1	1	2	1	5	0	3	2	3	2	1	4	4	6	5	11	0	5	5	6	5	1	1	1	2	77
船舶	施設の破損		1	1	3	1	2			1	3	2	1	2	1					1		1	2				22
	作業ミス		1			1	1			2			1			1		1	2	1		1	1				13
	施設の管理不備												1				1						1				3
	原因不明													1									1				2
	小計	0	2	1	3	2	3	0	0	3	3	2	2	4	1	0	1	1	1	1	2	2	0	3	4	0	0
その他	1	1	3	5	4	0	2	2	2	3	1	2	0	2	1	0	1	2	2	5	2	2	5	2	3	53	
原因不明	15	10	15	30	10	10	20	11	9	17	11	14	37	29	41	56	42	20	35	24	24	38	23	20	21	582	
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47	965	

3 異常水質事故発生状況一覧

平成30年度に発生した異常水質事故の発生状況の一覧を表IX-6に示す。

表IX-6 異常水質事故発生状況一覧

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
4/3 ・ 4/3	4/3 4/24 6/5	鶴見川	道路側溝	麻生区 王禅寺			○	①環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課 麻生区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	道路側溝にペンキを流している事業者がいるとの通報があり、現地調査を行った。調査の結果、通報があった場所のグレーチングにペンキの跡が確認された。後日、再度、現地調査を行ったところ、新たなペンキの跡は確認されず、原因者の判明には至らなかった。現場周辺にある事業者に排水等を道路側溝に流さないよう注意喚起の資料を配布した。	
4/4 ・ 4/4	4/4	東京湾	境運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②消防局臨港消防署 海上保安庁 ③なし	判明 不明	境運河と安善運河の交差する海域に油が浮遊しているとの連絡を受け、現地調査を行った。油膜は30m×30mの範囲に広がり、白石運河まで流れた。消防局と海上保安庁が船で拡散処理を行い、ほぼ油膜は見られなくなった。油の発生源は不明。	
4/25 ・ 4/25	4/25	東京湾	京浜運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②なし ③なし	判明 不明	京浜運河に油が浮遊しているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、海上に薄い油膜が見られ、油の量は0.5L程度と推測された。陸上から放水拡散を行い、油膜は見られなくなった。油の発生源は不明。	
5/7 ・ 5/7	5/7	多摩川	平瀬川	高津区 久地			○	①環境局水質環境課 高津区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	平瀬川に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地へ向かった。現地を確認を行ったが、到着した時には既に白濁水は流れておらず、発生源の判明には至らなかった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
5/17 ・ 5/17	5/17 5/18 5/22	東京湾	土壌	川崎区 浮島			○	①環境局水質環境課 消防局臨港消防署 ②なし ③環境局水質環境課 消防局臨港消防署	判明 不明	事業者から、原油タンクのルーフに原油が漏れ、ルーフに溜まった雨水とともに雨水側溝に流れて、原油が混ざった水が側溝周辺の土壌に地下浸透したとの連絡があった。タンク内の原油を抜き、ルーフ上の油の回収と清掃を行った。ルーフ上に亀裂が確認されたため、亀裂部の補修を行った。また、地下浸透した原油について、処置を講じるよう指導した。	関係機関が指導を行った。
5/30 ・ 5/30	5/30	東京湾	夜光水路	川崎区			○	①環境局水質環境課 消防局臨港消防署 ②なし ③なし	判明 不明	事業者から夜光水路に油が流出したとの連絡を受け、現地調査を行った。大雨の影響で油水分離槽がオーバーフローしたため、排出口から海域に油が流出した。排水口にオイルフェンスを設置し、これ以上油が流出しないようにした。また、放水拡散を行い、海上に油膜は見られなくなった。	関係機関が指導を行った。
6/7 ・ 6/7	—	多摩川	水路	高津区 坂戸			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から有害物質を含む排水が事業所横の水路に流出したとの連絡を受けた。終業時に洗浄設備の止水を忘れてしまい、排水処理設備等に溜まっていた未処理水がオーバーフローし、水路に流出した。水路への排水の流出を止め、水路に滞留した水を回収した。	関係機関が指導を行った。
6/8 ・ 6/8	6/8 6/14	多摩川	多摩川	幸区 戸手			○	①環境局水質環境課 環境局収集計画課 環境局南部生活環境事業 所 上下水道局南部下水道事 務所 ②なし ③環境局水質環境課 環境局収集計画課 環境局南部生活環境事業 所 上下水道局南部下水道事 務所	判明 不明	マンションから出る管きよから白濁水が流出しているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、マンションに設置されている浄化槽のばっ気ブローアが故障しており、浄化槽が正常に機能していないことがわかった。マンションの管理者に対し、ばっ気ブローアを交換するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名 ①調査 ②回収等対策 ③工場等指導	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他				
6/14 ・ 6/14	6/14	多摩川	平瀬川支 川	多摩区 長沢	○			①環境局水質環境課 環境局環境総合研究所 多摩区道路公園センター ②多摩区道路公園センター 環境局処理計画課 ③なし	判明 不明	平瀬川支川で魚が死亡しているとの連絡を受け、現地調査を行った。死亡していた魚は複数種で、300～400匹程度とみられた。水量の低下等、河川の異常は見られず、簡易水質検査（CN、六価クロム、DO）でも異常値は確認されなかった。死亡魚及び採水した水の分析を行ったが、死亡原因の解明には至らなかった。死亡した魚は回収した。	
6/18 ・ 6/18	6/18	東京湾	夜光水路	川崎区		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②港湾局港湾管理課 海上保安庁 ③なし	判明 不明	夜光水路に油が浮遊しているとの連絡を受け、現地調査を行った。海上に5m くらいの油膜が広がっていたため、吸着マットで油を回収した。油の発生源は不明。	
6/22 ・ 6/22	—	多摩川	土壌	高津区 坂戸			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業所から、下水栓が破損していたため下水道に流す排水を地下浸透させてしまったとの連絡があった。下水栓に入る前で排水の水質測定をしており、下水道の排除基準超過はないが、水質汚濁防止法の有害物質（ふっ素及びほう素）は検出されていた。一時的に排水を止め、今後、破損した栓を通らずに排水処理施設から下水道へ繋がる仮設配管を敷設する予定であるとのこと。仮設配管を使用する際は排水が流出しないよう注意し、ふっ素及びほう素の地下水への影響を確認するため、定期的な地下水モニタリングを行うよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	④調査 ⑤回収等対策 ⑥工場等指導			
不明 ・ 7/5	7/5 7/6	鶴見川	有馬川	宮前区 東有馬		○		①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター 上下水道局下水道水質課 上下水道局西部下水道 事務所 上下水道局第二配水工事 事務所 宮前消防署 ②①と同じ 建設緑政局河川課 ③②と同じ	判明 不明	有馬川に油が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、農家の重油配管が破損し、油が流出したことが判明した。重油タンクのバルブを閉めて、さらに重油が流出しないようにした。また、河川にオイルフェンスを展開した。	関係機関が指導を行った。
7/9 ・ 7/9	7/9	多摩川	平瀬川	高津区 久地			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②消防局臨港消防署 海上保安庁 ③なし	判明 不明	平瀬川に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行ったが、現地調査の途中で白濁水の流出が止まり、発生源の特定には至らなかった。	
8/4 ・ 8/4	8/4	多摩川	平瀬川	宮前区 平			○	①環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 上下水道局西部下水道事 務所 ②なし ③なし	判明 不明	平瀬川に黄色い水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行ったが、現場に到着したときにはすでに黄色い水は流れておらず、発生源の特定には至らなかった。	
不明 ・ 8/10	9/19	鶴見川	道路側溝	宮前区 小台			○	①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター 西部下水道管理事務所 ②宮前区道路公園センター ③環境局水質環境課 西部下水道管理事務所	判明 不明	宮前区小台の道路側溝に悪臭のする水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、事業者からの汚水が道路側溝に排出されていたことが判明したため、事業者に汚水管を下水道につなぐよう指導した。汚水管が下水道に接続された後、道路側溝の清掃を実施する予定である。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	④調査 ⑤回収等対策 ⑥工場等指導			
8/10 ・ 8/10	8/10	多摩川	平瀬川	高津区 久地			○	①環境局水質環境課 高津区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	平瀬川に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行ったが、現場に到着したときにはすでに白濁水は流れておらず、発生源の特定には至らなかった。	
8/21 ・ 8/21	8/21	東京湾	京浜運河	川崎区 水江町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から停電により排水処理設備が止まってしまい、生物処理がうまくいかなかったこと等により、黄色い濁った水を京浜運河に排出してしまったとの連絡があった。再発防止対策として、非常用発電機を設置し、排水処理設備の点検頻度を上げることにしたとのこと。	関係機関が指導を行った。
8/30 ・ 8/30	8/30	多摩川	二ヶ領用 水	高津区 二子			○	①環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 上下水道局中部下水道事 務所 高津区役所道路公園セン ター ②高津区役所道路公園セン ター ③環境局水質環境課 上下水道局中部下水道事 務所	判明 不明	工事現場で散水した水が濁水となって側溝に流れ、側溝を通じて二ヶ領用水に流れているとの連絡を受け、現地確認を行った。散水を行っていた事業者に対し、濁水を側溝に流さないように指導した。今後は発生した濁水は回収し、産業廃棄物として処理するとのことであった。また、濁水で汚れた側溝の清掃を実施する予定である。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	④調査 ⑤回収等対策 ⑥工場等指導			
9/6 ・ 9/6	9/6	東京湾	夜光水路	川崎区		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②なし ③なし	判明 不明	夜光水路に油が浮遊しているとの連絡を受け、現地調査を行ったが、現場に到着した時には油は拡散しており、発生源の特定には至らなかった。	
9/25 ・ 9/25	9/25	鶴見川	片平川	麻生区 栗平		○		①環境局水質環境課 麻生区道路公園センター 麻生消防署 麻生警察署 ②麻生消防署 麻生警察署 ③麻生消防署 麻生警察署	判明 不明	麻生区栗平で交通事故があり、道路上に流出した油が側溝や雨水管を通して片平川に流出したとの連絡を受け、現地調査を行った。事故現場では油回収等の処置が完了しており、現場に到着した時には片平川に油膜は見られなかった。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	⑦調査 ⑧回収等対策 ⑨工場等指導			
9/30 ・ 10/1	10/10	東京湾	京浜運河	川崎区 水江町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、SSが100mg/Lを超える排水を運河に流出させてしまったとの連絡があった。台風による強風で汚泥層の汚泥が溢流してしまったとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
10/4 ・ 10/4	10/4	東京湾	塩浜運河	川崎区 夜光			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②消防局臨港消防署 ③なし	判明 不明	塩浜運河に油が浮いているとの連絡を受け、現地調査を行った。油は水中から湧き出ているようであった。浮いている油を放水拡散させ、浮き出てくる油はオイルフェンスを展張して回収した。発生源の特定には至らなかった。	
10/19 ・ 11/2	—	多摩川	多摩川	川崎区 鈴木町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、排水の定期自主測定の結果、SSが排水基準を超過していたことがわかったとの連絡があった。サンプリング時に砂を巻き上げてしまい、また、サンプリングした試料の確認が不十分であったとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
10/23 ・ 10/23	10/23	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生			○	①環境局水質環境課 ②なし ③なし	判明 不明	平瀬川に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。上流を調査したが、白濁水の流入が止まり、発生源の特定には至らなかった。	
11/5 ・ 11/5	11/5	鶴見川	矢上川	宮前区 馬絹			○	①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	矢上川に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。現地に到着したときには白濁水は薄くなっており、上流を調査したが、白濁はなくなり、発生源の特定には至らなかった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	⑦調査 ⑧回収等対策 ⑨工場等指導			
11/6 ・ 11/6	11/6	東京湾	大師運河	川崎区 浮島町		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②消防局臨港消防署 海上保安庁 ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から大師運河に油を流出させてしまったとの連絡があった。作業ミスにより、排水処理設備で処理しきれなかった廃油がオーバーフローして排水口から流出してしまった。排水口にオイルフェンスを設置して拡散を防ぐとともに、排水処理施設からの排水を停止したとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
11/11 ・ 11/11	—	東京湾	南渡田運河	川崎区 扇町		○		①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から重油を南渡田運河に流出させてしまったとの連絡があった。配管が腐食し、漏えいした重油の一部が排水口から運河に流出した。排水口にオイルフェンスを設置し、拡散を防いだとのこと。再発の防止に努めるよう指導した。	関係機関が指導を行った。
11/13 ・ 11/13	11/13 11/14	鶴見川	水路	麻生区 岡上			○	①環境局水質環境課 麻生区道路公園センター 環境総合研究所 ②麻生区道路公園センター ③なし	判明 不明	麻生区岡上にある水路に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。上流を追うとともに、白濁水を採水し、分析したが、発生源の特定には至らなかった。 白濁水の流れた水路の清掃を実施した。	
不明 ・ 11/14	11/27	鶴見川		宮前区 鷺沼			○	①環境局水質環境課 上下水道局西部下水道 事務所 宮前道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課 上下水道局西部下水道 事務所	判明 不明	マンションの前に汚水が流れることがあるとの連絡があった。マンションの隣にある事業者の汚水柵が破損しており、汚水が地下浸透していることが判明した。事業者は汚水柵の補修を行ったとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	⑦調査 ⑧回収等対策 ⑨工場等指導			
11/14 ・ 11/14	11/14	東京湾	大師運河	川崎区 千鳥町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、pH8.7の水を運河に流出 させてしまったとの連絡があった。作業 ミスにより、無希釈の次亜塩素酸ソーダ を1分間流出させてしまったとのこと。 事業者に対し、再発防止策等を記載した 報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行 った。
12/12 ・ 12/12	12/12 12/13	多摩川	道路側溝	高津区 上作延			○	①環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 上下水道局中部下水道事 務所 高津区道路公園センター 高津警察署 ②高津区道路公園センター ③環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 上下水道局中部下水道事 務所	判明 不明	高津区上作延の道路側溝で悪臭がす るとの連絡を受け、現地調査を行った。 現地調査の結果、事業者が洗面台に流し た薬品(クレゾール約250mL)が道路 側溝に流れていたことがわかった。事業 者に対し、洗面台からの排水経路を下水 道へ接続すること、クレゾールは下水道 に流してはいけないので産廃として適 切に処理すること、再発防止策等を記載 した報告書を提出することを指導した。 道路側溝に流れたクレゾールは回収し、 道路側溝を清掃した。	関係機関が指導を行 った。
12/17 ・ 12/17	12/17	東京湾	京浜運河	川崎区 東扇島			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 ②港湾局港湾管理課 ③なし	判明 不明	京浜運河に油膜が50mくらい広がっ ているのを確認した。港湾局の船で航行 拡散を行った。新たな油の発生はなく、 発生源の特定には至らなかった。	関係機関が指導を行 った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	⑩調査 ⑪回収等対策 ⑫工場等指導			
1/9 ・ 1/9	1/9	東京湾	川崎港	川崎区 浮島町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、重油タンクの付属配管から重油が漏えいしたとの連絡があった。隣接する配管からの蒸気により、外面腐食したとのことで、弁を閉止し、漏えい箇所にバンドをあて漏えいを停止させた。漏えいした油はC重油 1L程度で、回収して産廃処理すること。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
1/17 ・ 1/17	1/17	東京湾	川崎港	川崎区 東扇島			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②消防局臨港消防署 海上保安庁 ③なし	判明 不明	川崎港に油膜が浮いているとの連絡を受け、現地調査を行った。100m×50mの油膜が確認されたが、油の発生源はわからなかった。新たな油の流出もなく、消防局と海上保安庁が航行及び放水による拡散処理を行った。	
1/18 ・ 1/18	1/18	多摩川	五反田川	多摩区	○			①環境局水質環境課 多摩区道路公園センター 環境総合研究所 ②多摩区道路公園センター 環境局処理計画課 ③環境局水質環境課	判明 不明	五反田川で魚が死んでいるとの連絡を受け、現地調査を行った。回収した死亡魚は9匹で、現地での簡易検査で水質に異常は見られず、また環境総合研究所での水質検査及び魚体検査においても、死亡の原因を突き止めることはできなかった。なお、事故現場周辺では、五反田川の放水路工事を実施しており、作業の管理ミスにより17日16時から18日2時まで、pH2~4の酸を河川に流してしまったことがわかった。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。(魚死亡と酸の流出について、結びつける証拠がないため、魚の死亡原因については不明とした。)	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	⑩調査 ⑪回収等対策 ⑫工場等指導			
1/25 ・ 1/25	1/25	東京湾	川崎港	川崎区 浮島町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、タンクの配管から軽油がタンクヤード内に漏えいしたとの連絡があった。漏えいした軽油は1000L程度で、配管を閉止し、漏えいを止めた。漏えいした軽油はバキューム回収し、また、ヤード内の土質表面はさらってドラム缶に回収したとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
2/4 ・ 2/4	2/4	東京湾	川崎港	川崎区 浮島町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、軽油相当の油が配管から漏えいし、地下浸透したとの連絡があった。配管にバンドを当て、漏えいを停止させた。油が地下浸透した場所には油処理剤をまいたとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
不明 ・ 2/5	2/12	多摩川	五反田川	多摩区 東生田			○	①環境局水質環境課 環境局収集計画課 ②なし ③なし	判明 不明	配管から黒い排水が五反田川に流れていたとの連絡を受け、現地調査を行った。調査当日、配管から黒い排水は流れていなかった。調査の結果、黒い排水が流れていた配管はあるアパートからの排水が流れる配管であることがわかった。アパートには合併浄化槽が設置されているが、年に1回の定期検査では浄化槽の性能に異常は見られなかった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ 他	⑩調査 ⑪回収等対策 ⑫工場等指導			
2/6 ・ 2/6	2/6	東京湾	川崎港	川崎区 東扇島		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ②港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 ③環境局水質環境課 港湾局港営課	判明 不明	東扇島の荷捌き地の前の道路及び海上に油が漏れ出ているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、荷捌き地に置かれていた中古車から油が流出したことがわかった。海上保安庁が海上の油膜の放水拡散を行い、陸上の油は港湾局と消防局で回収した。荷捌き地を借りている事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
2/13 ・ 2/13	2/13 2/18	鶴見川	水路	宮前区 土橋			○	①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	水路に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行ったが、日が暮れてしまい、また、水路の上流が暗渠になっていたため、その日(2月13日)は調査打ち切りとなった。後日(2月18日)改めて、現地を調査したが、白濁水は流れていなかった。	
2/21 ・ 2/21	2/21	多摩川	二ヶ領用水	中原区小杉町			○	①環境局水質環境課 中原区道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	二ヶ領用水に赤い水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、アパートの屋根を塗り替えるために屋根の高圧洗浄を行っており、古い赤い塗装がはがれて、雨どいをつたって二ヶ領用水に流出したことがわかった。作業を中止し、雨どいや配管に残った赤い塗装を回収するよう指導した。また、河川に流れてしまい、河床に堆積した赤い塗装も回収するよう指導した。さらに再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
2/22 ・ 2/22	2/22	多摩川	山下川	多摩区 寺尾台		○		①環境局水質環境課 多摩区道路公園センター 消防局多摩消防署 多摩警察署 ②多摩区道路公園センター ③なし	判明 不明	二ヶ領本川に油が流出しているとの連絡を受け、現地調査を行った。上流を追ったところ、山下川から流入していることがわかり、多摩区寺尾台にある水路まで油臭を確認したが、発生源の特定には至らなかった。山下川と二ヶ領本川の合流地点前の山下川にオイルフェンスを設置し、油を回収した。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ 他	⑬調査 ⑭回収等対策 ⑮工場等指導			
3/1 ・ 3/1	3/1	鶴見川	有馬川	宮前区 東有馬		○		①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター 上下水道局西部下水道管 理事務所 消防局宮前消防署 宮前警察署 ②宮前区道路公園センター ③環境局水質環境課 宮前区道路公園センター 上下水道局西部下水道管 理事務所 消防局宮前消防署 宮前警察署	判明 不明	有馬川に油が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、住宅の解体現場で軽油が漏れ、側溝を通じ、雨水管を通り、有馬川に流れてしまったことがわかった。雨水管からの水が有馬川に流出する地点にオイルフェンスを張り、油を回収した。また、事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
3/12 ・ 3/12	3/12	東京湾	田辺運河	川崎区 白石町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、汚水が排水処理施設に入る配管にトラックがぶつかり、未処理の汚水が海域に流出したとの連絡があった。壊れた配管の修理を行ったとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
3/15 ・ 3/15	3/15 3/25	多摩川	水路	高津区 北見方			○	①環境局水質環境課 中原区道路公園センター 高津区道路公園センター ②なし ③なし	判明 不明	中原区にある水路に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行った。上流の高津区まで水路が白濁していることがわかったが、発生源を突き止めることができなかった。後日、現場に行ったが、水路の底に沈殿物は溜まっているのが確認されたものの、流れている水は透明であった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名 ⑬調査 ⑭回収等対策 ⑮工場等指導	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
3/19 ・ 3/19	3/20	東京湾	南渡田運河	川崎区 扇町		○		①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者から、排水口付近の海域に油膜を確認したとの連絡があった。コンプレッサーの潤滑油が漏れ、間接冷却水の経路に流れ込み、排水口から排出されてしまったとのことであった。オイルフェンスを展開したほか、オイルマットで油を吸収したとのこと。事業者に対し、再発防止策等を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
不明 ・ 3/22	3/27 3/28	多摩川	水路	多摩区 宿河原			○	①環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 ②なし ③境局水質環境課 上下水道局下水道水質課	判明 不明	たばこの吸い殻入れの水を道路側溝に流している事業者がいるとの連絡があり、当該事業者への立ち入りを行った。たばこの吸い殻入れの水は道路側溝に流してはいけない旨の指導をし、廃水の正しい処理方法について指導した。	関係機関が指導を行った。
小計					2	16	29				
合計					47			判明：26 不明：21			

